

令和5年度
宇部市民意識調査報告書
Citizen Awareness Survey Report 2023

目次

第1章 調査方法	1
1 調査目的	1
2 調査地域	1
3 調査期間	1
4 調査対象及び調査方法	1
5 標本数及び回収結果	1
6 調査結果の表示方法	2
7 設問の概要	2
第2章 調査結果	3
1 回答者属性	3
2 宇部市の住みやすさについて	8
3 宇部市のまちやご自身について思うこと	28
(1) 産業や雇用環境について.....	28
(2) 子育て支援や教育環境について.....	33
(3) 観光やイベント、スポーツ・文化活動について.....	38
(4) 人権尊重や健康・福祉・医療について.....	44
(5) コミュニティや環境保全、安心安全、都市基盤などについて.....	54
(6) 行政運営について.....	63
(7) 市民の行動等に関する分析.....	78
4 第五次宇部市総合計画 前期実行計画 各施策の満足度・重要度について	90
(1) 各施策の満足度・重要度.....	90
(2) ライフステージ別の満足度.....	97
(3) ポートフォリオ分析.....	108
第3章 自由意見	128
資料編	130
1 回答状況	130
(1) 調査票での回答とインターネットでの回答者の割合	130
(2) 調査票とインターネットの回答者属性.....	130
2 調査票	132

第1章 調査方法

1 調査目的

本調査は、「第五次宇部市総合計画」を効率的かつ効果的に推進するため、市の施策に係る市民ニーズや満足度を把握するとともに、今後の施策展開に向けた基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査地域

宇部市全域

3 調査期間

令和5年7月27日～8月18日

4 調査対象及び調査方法

- ・市内全域の満18歳以上の市民から抽出した3,000人
(令和5年7月1日現在の住民基本台帳を基に層化無作為抽出を行った。)
- ・調査対象者個人宛に郵便で配付
(郵送による回収又はインターネットによる回答)

5 標本数及び回収結果

標本数(配布数)	有効回答数	有効回答率
3,000人	1,293人	43.1%

調査(アンケート)の有意性

本調査のように、全体(母集団)から一部を抽出して行う標本調査においては、統計上の有意性を確保するために、母集団の規模や許容誤差、信頼度等を踏まえ、必要標本数を満たす必要があります。

必要標本数は、下記の式により算出することができ、本調査の場合、 n (必要標本数)=384となるため、有効回答数(1,293人)がこれを上回っていることから、有意性の水準を確保していると言えます。

$$n = \frac{N}{\left[\frac{e}{k}\right]^2 \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

n =必要標本数、 N =母集団数(市の人口)、

e =許容誤差(5%)、 P =回答比率(50%)、 k =信頼度係数(1.96に設定→信頼度95%として)

6 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を除いているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。
- ・ 設問に対し回答がないもの（無回答）は、基本的に集計から除いています。（ただし、回答者の属性（P3～P7）や令和4年度調査との比較においては、無回答も含めて集計しています。）

7 設問の概要

- (1) あなた自身のことについて（Q1～Q7）
- (2) 宇部市の住みやすさについて（Q8～Q15）
- (3) 宇部市のまちやご自身について思うこと（Q16～Q51）
 - ① 産業や雇用環境について（Q16～Q19）
 - ② 子育て支援や教育環境について（Q20～Q24）
 - ③ 観光やイベント、スポーツ・文化活動について（Q25～Q29）
 - ④ 人権尊重や健康・福祉・医療について（Q30～Q36）
 - ⑤ コミュニティや環境保全、安心安全、都市基盤などについて（Q37～Q45）
 - ⑥ 行政運営について（Q46～Q51）
- (4) 第五次宇部市総合計画 前期実行計画 各施策の満足度・重要度について（Q52）